（様式1）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

研究進捗状況報告書の概要

1　研究プロジェクト

学校法人名	学校法人武蔵野美術大学	大学名	武蔵野美術大学
研究プロジェクト名	日本近世における文字印刷文化の総合的研究		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2　研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【目的・意義】
本研究プロジェクトの目的と意義は、次のとおりである。
①日本近世の木版印刷資料の造形学的分析
　木活字本や整版本など近世日本において発展をとげた木版印刷資料をタイポグラフィデザインおよび造本・装訂デザインの視点から分析し、それらの資料の造形的特質を明らかにする。
②高速類似画像検索技術を用いたタイポグラフィデザインの解析
　タイポグラフィの分類にあたっては、高速類似画像検索技術を用いた文字形象および形態解析を行う。
③国際比較研究
　日本近世におけるタイポグラフィ（文字形象）デザインを、日本一国の印刷文化史のなかでのみ捉えるのではなく、中国や韓国という他の漢字文化圏における木版印刷資料と比較考察することによって、それらの間の類似点や差異を分析することによってそれぞれの国における特質を明らかにすることができる。
④文字印刷文化の総合的研究
　グラッフィクデザインの専門家のみならず、日本近世美術史、日本近世文学、日本画、版画を専門とする研究者による共同研究により、学際的かつ総合的な造形的特質を明らかにすることができる。

　近世日本における木版印刷資料は、デザイン学の観点からはこれまであまり研究されてこなかった。これらの資料をデザイン学の視点から整理、分析することにより、日本における印刷文化および造形文化の展開の歴史への知見をさらに深め、新たな研究の領域を広げることが可能となる。また、漢字の図像的視点および文字形象の国際比較文化史的考察により、日本におけるタイポグラフィデザインの造形的歴史を多角的に捉えることが可能となり、文字文化の将来的発展にも寄与することとなる。

【研究計画】
　平成 26 年度は、本学図書館が有する近世日本の古典籍・活版印刷資料約 350 点の資料評価および整理等の準備作業を進め、また高速類似画像検索システム開発のための条件

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

整備、調査を行う。あわせて研究に必要となる研究設備を入手する。
　平成 27 年度は、それら資料のデジタル画像化とデータベース化を進め、IT技術をもとにした高速類似画像検索システムの解析プログラム開発の準備を行う。
　28 年度から 29 年度には整理された資料をもとに分析を進め、最終年度となる平成 30 年度には、高速類似画像検索システムを完成させる。また展覧会と冊子体による成果公表を行う。

３　研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

①日本近世の木版印刷資料の造形学的分析
　京都の光悦寺における肉筆謡本の調査を契機として、日本近世の木版印刷資料の中でもとりわけ贅を尽くした書物として知られる「嵯峨本謡本」の復元を進めた。慶長期の美術的傾向と木版印刷技術の粋を集めた「嵯峨本謡本」を、制作過程を含めて復元することにより、その技術的・造形的背景について造形学的分析を進めている。

②高速類似画像検索技術を用いたタイポグラフィデザインの解析
　本学美術館・図書館の所蔵する貴重書と金原服部文庫の中から、本研究が対象とする日本近世の木版印刷資料についてデジタル化を行った。また、専門家以外は読むことが難しい江戸期を中心とする版本を対象として、高速類似画像検索技術「Enra Enra」を応用した新たなシステムの開発に着手し、文字の解読を補助する機能と文字形象の解析を行う機能の開発を進めている。これらの機能の完成により、これまで文字の解読が困難であったために遅れていた、日本近世における造本やタイポグラフィデザイン（木活字の文字形象及びそれらを用いた版面）の研究が可能となると考えられる。

③国際比較研究
　漢字文化圏に属する日本、中国、韓国の研究者が、それぞれの文字印刷文化のなかで生成された資料群に関する情報交換を重ね、国際シンポジウムや研究会の実施を通じて、研究成果の公開と研究進捗の共有を進めた。他国の印刷技術について分析することは、自国の印刷文化の固有性を認識することにも結びついており、そのようにして得られた知見を活かして「日中韓三カ国　印刷史・造本史年表（仮称）」の編纂を進めている。

④文字印刷文化の総合的研究
　日本近世の木版印刷資料を研究するためには、その造形上の特徴のみならず、本文の内容や同時代の出版事情、あるいは社会的背景をも理解する必要がある。本研究プロジェクトでは、日本近世の木版印刷資料について各方面の専門家から助言を受けるために、各年度において研究会を開催したほか、関連するシンポジウム等に出席し、学際的かつ総合的な研究を進めている。

（様式1）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

平成 26 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書

1　学校法人名　学校法人武蔵野美術大学　　2　大学名　武蔵野美術大学

3　研究組織名　武蔵野美術大学　造形研究センター

4　プロジェクト所在地　東京都小平市小川町 1-736

5　研究プロジェクト名　日本近世における文字印刷文化の総合的研究

6　研究観点　研究拠点を形成する研究

7　研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
新島　実	造形学部視覚伝達デザイン学科	教授

8　プロジェクト参加研究者数　17　名

9　該当審査区分　理工・情報　　生物・医歯　　［人文・社会］

10　研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
新島実	視覚伝達デザイン学科・教授	文字形象、造本・装訂デザインの解析および国際比較文化史的研究	デザイン学的視点からの日本近世の木版印刷資料の解析、国際比較研究。高速類似画像検索システムの推進
寺山祐策	視覚伝達デザイン学科・教授	文字形象、造本・装訂デザインの解析、高速類似画像検索技術の活用による研究	デザイン学的視点からの日本近世の木版印刷資料の解析。高速類似画像検索システムの推進
内田あぐり	日本画学科・教授	日本画を専門とする視点からの造本・装訂デザインの研究、写本との比較研究	日本近世木版印刷物における造本・装訂デザインの解析
高浜利也	油絵学科・教授	版画制作を専門とする視点からの印刷技法および版と表現技法の研究、写本との比較研究	日本近世木版印刷物における造本・装訂デザインの解析
長澤忠徳	デザイン情報学科・教授	アジアのグラフィズムの視点からの文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究	アジアにおける文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究
玉蟲敏子	造形文化・美学美術史・教授	日本近世美術史研究者の視点からの近世の造本・装訂デザインの研究、写本との比較研究	美術史学的観点からの日本近世印刷資料の文字形象、造本・装訂デザインの解析
今岡謙太郎	教養文化・教授	日本近世文学研究の視点からの研究対象資料の価値評価と文学史上の位置づけ	文字形象、造本・装訂デザイン研究の対象となる資料の文学史的価値判断

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

勝井三雄	名誉教授	文字形象、造本・装訂デザインの解析および国際比較文化史的研究	デザイン学的視点からの日本近世の木版印刷資料の解析、国際比較研究
荒俣宏	客員教授	博物学的視点からの造本・装訂デザインの包括的研究	博物学的視点からの図像解析、造本・装訂デザインの解析
（共同研究機関等）			
杉浦康平	神戸芸術工科大学・名誉教授	アジアのグラフィズムの視点からの文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究	アジアにおける文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究
石川英輔	作家	江戸文化の文脈における書物、活字、造本の研究	日本近世木版印刷資料の江戸文化史的位置づけ
片塩二朗	株式会社朗文堂代表取締役	文字形象および印刷技法の研究	日本近世の古活字の印刷技法史上の位置づけ
神作研一	人間文化研究機構国立文学研究資料館研究部・教授	日本近世文学研究者の視点からの研究対象資料の価値評価と文学史上の位置づけ	文字形象、造本・装訂デザイン研究の対象となる資料の文学史的価値判断
タイモン・スクリーチ	ロンドン大学アジア・アフリカ研究所・教授	江戸文化の文脈における書物、活字、造本の研究	日本近世木版印刷資料の江戸文化史的位置づけ
アン・サンスー	タイポグラファー、PATI ファウンダー、元弘益大学視覚デザイン科・教授	韓国文化の視点からの文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究	アジアにおける文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究
ワン・ミン	アート・ディレクター、デザイナー、中央美術学院・教授	中国文化の視点からの文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究	アジアにおける文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究
マ・クァン	清華大学美術学院・教授	中国文化の視点からの文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究	アジアにおける文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究

＜研究者の変更状況（研究代表者を含む）＞

旧

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	研究員追加		

（変更の時期：平成２７年９月１日）

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
清華大学美術学院（中国　北京）	造形研究センター・客員研究員	マ・クァン	アジアにおける文字形象、造本・装訂デザインの国際比較研究

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

１１　研究進捗状況（<u>※　５枚以内で作成</u>）

（１）研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【目的・意義】
本研究プロジェクトの目的と意義は、次のとおりである。
①日本近世の木版印刷資料の造形学的分析
　木活字本や整版本など近世日本において発展をとげた木版印刷資料をタイポグラフィデザインおよび造本・装訂デザインの視点から分析し、それらの資料の造形的特質を明らかにする。
②高速類似画像検索技術を用いたタイポグラフィデザインの解析
　タイポグラフィの分類にあたっては、高速類似画像検索技術を用いた文字形象および形態解析を行う。
③国際比較研究
　日本近世におけるタイポグラフィ（文字形象）デザインを、日本一国の印刷文化史のなかでのみ捉えるのではなく、中国や韓国という他の漢字文化圏における木版印刷資料と比較考察することによって、それらの間の類似点や差異を分析することによってそれぞれの国における特質を明らかにすることができる。
④文字印刷文化の総合的研究
　グラッフィクデザインの専門家のみならず、日本近世美術史、日本近世文学、日本画、版画を専門とする研究者による共同研究により、学際的かつ総合的な造形的特質を明らかにすることができる。

　近世日本における木版印刷資料は、デザイン学の観点からはこれまであまり研究されてこなかった。これらの資料をデザイン学の視点から整理、分析することにより、日本における印刷文化および造形文化の展開の歴史への知見をさらに深め、新たな研究の領域を広げることが可能となる。また、漢字の図像的視点および文字形象の国際比較文化史的考察により、日本におけるタイポグラフィデザインの造形的歴史を多角的に捉えることが可能となり、文字文化の将来的発展にも寄与することとなる。

（２）研究組織

　本研究プロジェクトは、グラフィックデザインを専門とする教員と、近世絵画史を専門とする教員、日本画を専門とする教員などを中心に研究体制を構築し、アジアや近世の出版文化に詳しい専門家、日本近世文学を専門とする研究者を学外から客員研究員として迎え、本学造形学部専任教員および名誉教授の９名、学外の客員研究員８名の計１７名を担当研究者として配置している。さらにリサーチフェロー制度を活用して若手研究者２名、資料の整理およびデジタル化作業に大学院生や卒業生が参加している。
　また本プロジェクトでは、日本近世当時の古活字版の成立過程を復元し、具体的に検証する実践研究を進めるため、京都の伝統的な摺師、彫師、経師の職人の方々の協力を得ている。
　研究は「造形研究センター運営委員会」と「美術館・図書館」によって組織的に支援される体制である。

（３）研究施設・設備等

　研究施設・造形研究センター（面積 3,970 ㎡）を 17 名の研究者が利用。
　平成 26 年度に古活字版嵯峨本『伊勢物語』（利用時間 840 時間）、「草双紙を中心とする近世絵入本コレクション」（利用時間 840 時間）、「近世活字印刷資料コレクション」（利用時間 840 時間）、平成 27 年度に整版丹緑本『曽我物語』（利用時間 640 時間）、写本『千蟲譜』（利用時間 640 時間）、平成 28 年度に写本『衆蟲写真譜』（利用時間 80 時間）を整備した。美術館・図書館が所蔵する 17 世紀から 19 世紀までの近世日本の古典籍および活版印刷資料と合わせて研究を実施している。

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

（4）進捗状況・研究成果等　※下記、13及び14に対応する成果には下線及び＊を付すこと。

＜現在までの進捗状況及び達成度＞
①日本近世の木版印刷資料の造形学的分析
日本近世の木版印刷資料には、造形学的視点から見て豊かな研究領域が広がっている。本研究では、江戸期を中心とする膨大な量の版本からその源流に位置する研究対象を見定め、後代への影響の範囲を測る調査を進めている。とりわけ、国文学を内容とする最初の版本であることから、後の江戸期版本全般に強い影響を及ぼしたとされる「嵯峨本」と、浄土真宗の第八代宗主蓮如により嵯峨本以前に開版され、独自の造本文化を形成した『三帖和讃』について造形学的分析を進めている。それぞれ、古活字版と木版整版という異なる印刷方式を採るものの、いずれも和様の造本様式を代表する書物として位置づけるに足る特色を備えている。本研究は、これまで版本を通しての調査では解明されなかった嵯峨本と『三帖和讃』の造本について、造形学的視点から実証的に捉え直すことにより、それらを基点として派生していく日本近世の木版印刷文化全体の理解を深めることに結びつくと考えられる。

【嵯峨本研究の現状】
本研究の主軸をなす嵯峨本研究の進捗について報告する。わが国の古活字版は国外から舶載された活字印刷術を用いて制作されたと言われている。しかし、伏見版の木活字など一部の史料を除いては、印刷に用いられた機具等が発見されていないため、当時の技術的背景を知ることは困難である。本阿弥光悦、俵屋宗達、角倉素庵などが関係したとされる嵯峨本も、そうした古活字版のひとつである。嵯峨本はわが国の印刷史において贅を尽くした書物として知られ、特に観世流の謡本、通称「光悦謡本」（本報告書では以後「嵯峨本謡本」とする）にその特色が現れている。古来より用いられてきた列帖装という製本様式に始まり、光悦流の書風を有した木活字や連綿体を再現するための連綿活字、宗達風の意匠を施した装飾料紙など、造形的に贅を尽くした「嵯峨本謡本」は、いわば、慶長期の美術的傾向と木版印刷技術の粋を集めた書物であったと言える。それゆえ、能楽史、書誌学、美術史など、複数の分野に渡って数多くの研究がなされてきたが、その造形的特徴を支えていた技術的背景については研究途上にあると言える。

【嵯峨本の造形学的研究とその目的】
このような研究の現状と歴史的評価を踏まえたうえで、本研究では嵯峨本の中でもとりわけ美術的に高く評価されている「嵯峨本謡本」について、これまでの研究方法とは異なる造形学的視点から捉え直しを進めている。具体的には、「嵯峨本謡本復元プロジェクト」と称するプロジェクトを立ち上げ、本学研究員による監修の下、現在も京都に伝わる職人の技術を用いて、木活字制作、料紙装飾、摺刷、製本などの書物造形の各工程を実際に復元することを目的とする。また、復元に使用する和紙を抄造するために、光悦流書風の謡本写本と「嵯峨本謡本」の料紙の科学分析を行い、和紙の抄造方法と料紙制作プロセスの解明のために調査を進めている。このような復元作業を通じて得られる造形学的知見をもとに、往時の「嵯峨本謡本」の制作工程を推察し、多方面からの検証を重ねることにより、これまで明らかにされてこなかった「嵯峨本謡本」の美的特質を明らかにすることができると考えられる。
なかでも、本研究の中心的課題に位置づけられるのが、「嵯峨本謡本」の木活字の制作過程を復元する試みである。「嵯峨本謡本」は原字制作者による肉筆資料が発見されていないため、木活字の制作過程の解明はこれまで困難であった。本研究では、肉筆から木活字への移行過程を検証するために、京都の光悦寺が所蔵する光悦流の書風を有する謡本写本を原字として新たな木活字の制作を進めている。写本に見られる肉筆の文字の特徴が、いかにして木活字の規格のなかに落とし込まれたのか。その過程で失わ

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

れ、あるいは残された文字形象はいかなるものであるのか。今回の実制作を通した検証により、「嵯峨本謡本」の木活字の制作過程への理解を深めることができると考えられる。

【三帖和讃の研究】
先に触れたように、嵯峨本と並び和様の造本様式を代表する書物が、浄土真宗第八代宗主の蓮如が文明五（1473）年に開版した『三帖和讃』である。嵯峨本は慶長期の刊行であるが、『三帖和讃』の刊行年はそれよりも百年以上も先駆けており、わが国の出版史上大きな意義を有する出版であったと考えられる。これまで、『三帖和讃』の研究は、真宗研究の領域において書誌学的アプローチによる研究が行われてきた。本研究では、これまであまり注目されてこなかったその造本に目を向けて、膨大な数に及ぶ日本近世の木版印刷資料の中で、『三帖和讃』がどのような意味と意義を有しているのか、出版史的・造形学視点から研究を進めている。平成28年度より研究を始め、これまでに、「文明版和讃」と「色紙和讃」を所蔵する日本民藝館や龍谷大学図書館にて研究調査を行ってきた。今後、特に漢字とカタカナの分かち書きや独自の文字形象について、各時代の『三帖和讃』や他の版本との比較検証などを通して、さらなる研究を進めていく予定である。

②「高速類似画像検索技術を用いたタイポグラフィデザインの解析」
日本近世の木版印刷資料について、造本やタイポグラフィデザイン（木活字の文字形象及びそれらを用いた版面）の研究がこれまで進まなかった原因のひとつには、明治以前の版本の文字を読むことが、専門的な技能となってしまった現状が挙げられる。くずし字や連綿体、宛て字や変体仮名などの様々な特徴を知らなければ、個々の文字の形象について判別することは困難であり、ひいてはそれが、江戸期版本の造本とタイポグラフィデザインの解析を妨げることに結びついていた。本研究は、このような問題を解決するために、日本近世の木版印刷資料のデジタル化を行った上で、個々の文字の切り出しと読み仮名の付与を行い、日立製作所の開発した高速類似画像検索技術「Enra Enra」を応用して、文字解読と文字形象の研究を可能とするための新たなシステムの開発を行っている。
具体的な作業としては、江戸期版本に特有の難読性が原因となり利活用の範囲が限定されていた、本学美術館・図書館の金原服部文庫の古典籍と貴重書について、本文のデジタル化とシステム上への登録を進めている。さらに、デジタル化された本文の画像から一字ずつ切り出した文字画像をシステムに蓄積することにより、「古典籍の文字データベース」（辞書）を構築し、専門的知識がなければ読むことが難しい文字の解読と類似検索による文字形象の解析の精度を向上させることに努めている。今後、順調にシステムの開発が進展すれば、ある任意の文字形象について、解読補助や高速類似画像検索による研究が可能となるほかに、古活字版における同一活字の襲用回数の割り出しや、木版整版本における書体の変遷の整理等、より専門的な研究にも活用が期待される。従来、専門的な知識がなければ読むことができなかった古典籍の文字が解読され、高速類似画像検索による文字形象の研究が可能となれば、今後、同分野における研究の飛躍的な発展に結びつく可能性がある。
28年度末時点でデジタル化が完了した研究対象資料の総数は、計795冊、画像点数にして27,828点、「文字切り出し」点数は41,726点である。
また、28年度末までに本システムに組み込まれた機能は以下の通りである。
1. 任意の文字形象について類似画像の検索を行う機能。 2. 仮名あるいは漢字の特定字種の検索機能。 3. 版形式（写本、古活字版、整版、近世木活字版）や出版年による絞り込み機能。
上記三点の条件を組み合わせることにより、これまで構築に努めてきた「古典籍の文字データベース」（辞書）から、目的に応じて的確な絞り込み検索が可能となり、システム利用者の研究目的に適った類似画像の抽出と分類が可能となった。これにより、任意の文字データに対する類似画像の検索効率が格段

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

に向上し、本研究を進めるための基礎的な条件を整えることができた。

③「国際比較研究」

本研究は、中国と韓国の客員研究員や研究協力者と共同で研究を進めており、相互に訪問を重ねながら各国の印刷文化の差異や共通点を確認するための調査を続けてきた。訪問先では、伝統的な印刷技術を継承している職人の工房のほか、古典籍や印刷機具を所蔵する諸機関において研究調査を行い、各国の印刷文化のあり方について比較研究を進めている。慶長期に刊行された嵯峨本や伏見版などの古活字版を、朝鮮時代の印刷技術と対照することにより、その固有性を捉え直すことも目的のひとつである。韓国では朝鮮時代の金属活字と組版機具等について、実際の再現制作をともなった研究が進んでいる。現地の研究機関を訪問し、朝鮮時代の印刷技術に関する理解を深めることは、「嵯峨本謡本復元プロジェクト」で制作が進んでいる木活字や組版機具類との比較研究にも結びついている。

研究成果の発表としては、27年度に中国と韓国より客員研究員と研究協力者を招聘して、「漢字文化圏タイポグラフィの変遷　日中韓共同研究」と題したシンポジウムを開催し、相互の研究進捗と成果について公開した。＊ また、日中韓三カ国の比較研究を進めるために制作中の「日中韓三カ国　印刷史・造本史年表（仮称）」を公開し、今後の研究テーマについて意見交換を行った。＊　翌28年度には、京都において「日中韓共同研究会」を開催し、構想調書に研究テーマとして掲げている①と②について研究進捗を報告した。＊ また、中国、韓国の客員研究員及び研究協力者と本学の研究員が共同で、京都の職人の工房において研究調査を行い、わが国の伝統的木版印刷の技術と、中国、韓国との相違について意見交換を行った。＊

④「文字印刷文化の総合的研究」

本研究は、上記①②③の内容との関連から、学際的かつ総合的なアプローチより研究を行うとともに、様々な研究会及び講習会を開催して研究に活かしている。平成26年度は、高速類似画像検索技術「Enra Enra」に関連して、日立中央研究所の廣池敦氏を招いて研究会を開催し、同技術の特徴について説明を受けた。＊ 今後、その技術を応用した新たなシステムを開発するにあたり、技術面での助言を受けることになった。また、京都の経師として製本や文化財修復等を手がけている（株）大入の大入達男氏を招き「和装本講習会」を開催し、和本の代表的な製本様式である四つ目綴じの方法について職人の方々から手解きを受けた。＊ 客員研究員の石川英輔氏による研究会「『江戸期草双紙』を中心とした変体仮名および印刷文化について」においては、文字の解読に専門的知識が必要な草双紙について理解を深めた。＊

平成27年度は、高速類似画像検索技術「Enra Enra」を応用して新たに開発を進めているシステムに関連して、外部の研究者の専門的な見地を取り入れながら研究を進めた。東京大学史料編纂所の井上聡氏を招いて同編纂所と奈良文化財研究所が共同で運用している「電子くずし字データベース」についてヒアリングを行った＊ほか、凸版印刷と国文学研究資料館が開発を行っているくずし字翻刻のための OCR 技術について調査するために、「日本語の歴史的典籍データベースが切り拓く研究の未来」、「可能性としての日本古典籍」などのシンポジウムに出席し、本研究プロジェクトの研究目的との類似点・相違点について検証を行った。

客員研究員の神作研一氏を招いて開催した研究会「本にも身分がある――古典籍のカタチ――」では、近世における出版文化とその背景にある需要層の広がり等について理解を深めた。＊

また、「嵯峨本謡本復元プロジェクト」に関連して、法政大学能楽研究所にて「嵯峨本謡本」や観世流謡本の写本などの研究調査を行った。同大学にて開催された研究集会「縦断横断　光悦謡本――慶長文化の精華を解析する――」に出席したほか、同時開催の展示「慶長文化の精華　光悦謡本の世界」を展観し、慶長期の「嵯峨本謡本」と関連する写本等の調査を継続した。

（様式1）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

平成28年度は、「嵯峨本謡本復元プロジェクト」の進展とともに、法政大学能楽研究所にて研究調査を継続したほか、能楽史の専門家と連携を深め、同研究所の宮本圭造教授を招いて「本阿弥光悦と謡曲光悦流の筆写本と嵯峨本謡本の関連について」と題した研究会を開催した。東京藝術大学が所蔵する通称「百番本」と呼ばれる謡本写本や、本研究プロジェクトで研究している謡本写本について専門的見地からの説明を受け、「嵯峨本謡本」と写本の関連について理解を深めた。

＜特に優れた研究成果＞
「嵯峨本謡本復元プロジェクト」については、復元作業を通して造形学的分析が進展するとともに、多方面に渡る専門性を活かした学際的かつ総合的な調査が行われ、研究成果の発表へ向けて研究が進んでいる。特に、木活字や摺刷盤などの印刷方式や制作過程をも含めた研究は、「嵯峨本謡本」研究の分野ではこれまであまり検証がなされていなかった領域であり、本研究プロジェクトが探っている造形学的分析の方法が一定の成果を挙げつつある。
　また、高速類似画像検索技術「Enra Enra」を応用した新たなシステムの開発によって、これまで本文の解読に高い専門性を必要とした日本近世の版本の文字について、解読の補助を行う機能の開発が進んでいる。今後、同機能の精度を上げることで、日本近世の版本への興味を高める社会的波及効果が見込まれるとともに、日本近世の版本の文字形象に関する研究という専門的な研究領域の発展にも寄与する可能性がある。

＜問題点とその克服方法＞
本研究プロジェクトは研究の性格上、多角的な視点から検証を必要とすることが多いため、研究員、客員研究員に加え、諸分野の専門家や研究協力者から助言を受けながら研究を進めていく必要がある。

＜研究成果の副次的効果（実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。）＞
「高速類似画像検索システム（仮称）」の公開にともない、日本近世の版本の本文内容の読解が進み、文字形象の研究が飛躍的に発展する可能性がある。

＜今後の研究方針＞
「嵯峨本謡本」の復元の完了と、復元過程の詳細な記録及び造形学的研究の成果をまとめる。また、「高速類似画像検索システム（仮称）」を公開する。平成30年度には、本学美術館にて本研究プロジェクトの研究成果を報告する展覧会を開催し、展示に合わせて刊行される展覧会図録に詳細な研究成果を公表する。

＜今後期待される研究成果＞
①復元した「嵯峨本謡本」の公開。復元を通して解明された造形学的研究成果の報告。
②高速類似画像検索技術「Enra Enra」を応用した新たなシステムの公開。近世版本の文字解読補助機能の公開及び文字形象研究の成果の報告。
③日中韓三カ国の比較研究の成果の公開。「日中韓　印刷史・造本史年表（仮称）」の公表。
④多方面の専門性を有する研究員による、学際的かつ総合的な研究成果の公表。

＜自己評価の実施結果及び対応状況＞
　自己評価としては、研究の達成度の自己点検・検証を造形研究センター運営委員会が行っている。研究費の適正な執行に関しては、研究費等不正使用防止対策委員会が設置されている。

＜外部（第三者）評価の実施結果及び対応状況＞
　外部（第三者）による評価は、研究会やシンポジウムの開催時に合わせて、学外研究者の評価を受け、研究の実施に反映させている。

（様式1）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

12 キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを８項目以内で記載してください。）

（1）木版印刷 （2）古活字版 （3）整版
（4）高速類似画像検索 （5）漢字文化圏比較研究 （6）嵯峨本謡本復元
（7）江戸版本文字形象研究 （8）三帖和讃

13 研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）
上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付すこと。

＜雑誌論文＞

1. 寺山祐策、赤崎正一、戸田ツトム、寺門孝之、小山明、黄國賓「近代デザイン全般の中でのエディトリアルデザインの成立に関する研究/杉浦康平デザイン研究の継承と展開」、『芸術工学：神戸芸術工科大学紀要』2015 年、神戸芸術工科大学
2. 神作研一「（シンポジウム）江戸の〈知〉―蔵書の種々相を考える―」、『国文学研究資料館調査研究報告』35 号 2015 年、国文学研究資料館
3. 杉浦康平、黄國賓、赤崎正一、今村文彦、荒木優子、山之内誠、さくまはな、曽和英子「トンパ文字の構造原理とビジュアル・コミュニケーションデザインに関する研究」、『芸術工学』2014 年、神戸芸術工科大学
4. 杉浦康平、今村文彦、齊木崇人、山之内誠、黄國賓、さくまはな、長野真紀、曽和英子、松本美保子、尹聖喆、大田尚作「アジアのデザイン文化の比較研究/山車の造形と祭礼文化を中心にして」、『芸術工学：神戸芸術工科大学紀要』2014～2015 年、神戸芸術工科大学
5. 玉蟲敏子「やまと絵と琳派の交流」、『美術フォーラム 21』29 号 2014 年、醍醐書房
6. 神作研一「An Outline of the History of Waka in the Edo Period 近世和歌史概説」、『国文学研究資料館紀要』40 号 2014 年、国文学研究資料館
7. 片塩二朗、板倉雅宣、内田明、大石薫、松尾篤史「江川次之進の事績と江川活版製造所の変遷」、『タイポグラフィ学会誌』7 号 2014 年、タイポグラフィ学会

＜図書＞

1. 新島実、アラン・チャン、えぐちりか、保田卓也『グラフィックトライアル 2016－Crossing－』（図録）印刷博物館、2016 年 6 月
2. 神作研一、落合博志、恋田知子『書物で見る日本古典文学史』（図録）国文学研究資料館、2016 年 6 月
3. 玉蟲敏子著『日本美術のことばと絵』KADOKAWA,2016 年 5 月
4. 今岡謙太郎「勧善懲悪覗檯機」解題（『正本写合巻集』17）日本芸術文化振興会,2016 年 3 月
5. 玉蟲敏子「書画二重奏への道」（『光悦:琳派の創始者：光悦村開村 400 年記念論集』所収、宮帯出版社、2015 年 10 月）
6. 玉蟲敏子、赤沼多佳、内田篤呉『もっと知りたい本阿弥光悦：生涯と作品』東京美術,2015 年 9 月
7. 玉蟲敏子、奥平俊六、並木誠士、中部義隆、河野元昭『年譜でたどる琳派 400 年』淡交社,2015 年 1 月
8. 寺山祐策編集、荒俣宏特別監修『博物図譜とデジタルアーカイブ（特装本）』武蔵野美術大学造形研究センター、2014 年 10 月
9. 杉浦康平著『文字の靈力』工作舎,2014 年 9 月

（様式１）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

＜学会発表＞

特になし

＜研究成果の公開状況＞（上記以外）

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

＜既に実施しているもの＞

１．日中韓共同研究「漢字文化圏タイポグラフィの変遷」・講演「中国におけるブックデザインの転換期 1862 年から 1937 年」（赵健・北京清華大学美術学院ヴィジュアル・コミュニケーション学科教授）2015 年 11 月 6 日
２．日中韓共同研究「漢字文化圏タイポグラフィの変遷」・講演「知識と情報コミュニケーションの側面から探る朝鮮半島の金属活字と木活字の歴史」（南權熙・東大邱 慶北大学社会科学大学文献情報学科教授）2015 年 11 月 7 日
３．日中韓共同研究「漢字文化圏タイポグラフィの変遷」・講演「近代初期のハングル活字についての研究（号サイズハングル活字の製作背景を中心に）」（朴志勲・グラフィックデザイナー）2015 年 11 月 7 日

＜これから実施する予定のもの＞

1. 2019 年展覧会開催 「日本近世における文字印刷文化の総合的研究」展（仮称）： 研究成果を展覧会において公開する。
2. 2019 年展覧会図録刊行 「日本近世における文字印刷文化の総合的研究」展（仮称）図録： 展覧会にあわせて図録を刊行し、書籍のかたちで成果を残す。

１４ その他の研究成果等

「１２ 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。 また、上記１１(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付してください。

１．大入達男（株式会社大入代表取締役）「和装本の造本と綴じの技法実践」2014 年 9 月 26 日
２．廣池敦（日立中央研究所研究員）「高速類似画像「Enra Enra」について」2014 年 12 月 13 日
３．石川英輔「『江戸期草双紙』を中心として文字および印刷文化について」2015 年 2 月 17 日
４．井上聡（東京大学史料編纂所助教）「日本近世における、文字印刷文化の総合的研究」インタビュー調査、2015 年 4 月 22 日
５．神作研一「本にも身分がある―古典籍のカタチ―」2015 年 12 月 11 日
６．新島実ほか『グラフィックトライアル 2016－Crossing－』（展覧会）印刷博物館、2016 年 6 月 11 日～9 月 11 日
７．宮本圭造（野上記念法政大学能楽研究所教授）「本阿弥光悦と謡曲　光悦流の筆写本と光悦謡本の関連について」2016 年 7 月 19 日
８．「日中韓　共同研究会」　2016 年 10 月 28 日～30 日

（様式１）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

１５ 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

＜「選定時」に付された留意事項＞
デジタル画像化、データベース化による資料整理が中心であり、総合化、多角化にどのような付加価値をもたらすのかわかりにくい。資料の活用に努めていただきたい。

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞
古典籍画像のデジタル化、データベース化による資料整理に基づいて、資料の新たな利活用の可能性を広げるための研究とシステム開発に努めている。高速類似画像検索技術「Enra Enra」を応用して新たに開発しているシステム上に古典籍の文字データベースを構築し、これまで専門的知識が必要だった日本近世の版本の解読補助と文字解析に役立てようとしている。
また、「嵯峨本謡本」の復元には、造形学的研究とともに、美術・デザインを始めとする各領域において、多様な専門性を有する研究員による多角的な検証が行われており、「嵯峨本謡本」研究の分野における新たな研究成果が期待されるだけでなく、これまであまり進んでいなかった近世木版印刷資料の学際的かつ総合的な研究の進展に寄与する可能性がある。

（様式1）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況（実績概要）　（千円）

年度・区分		支出額	内訳						備考
			法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他（　　）	
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	14,916	5,714	9,202	0	0	0	0	
	研究費	17,287	8,860	8,427	0	0	0	0	
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	10,314	3,702	6,612	0	0	0	0	
	研究費	28,484	14,865	13,619	0	0	0	0	
平成28年度	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	4,968	1,656	3,312	0	0	0	0	
	研究費	37,908	18,979	18,929	0	0	0	0	
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	30,198	11,072	19,126	0	0	0	0	
	研究費	83,679	42,704	40,975	0	0	0	0	
総計		113,877	53,776	60,101	0	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況 （私学助成を受けたものはすべて記載してください。）

《施　設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）　（千円）

施設の名称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
造形研究センター	H22	3,970㎡	20	17	―	―	―

※ 私学助成による補助事業として行った新増築により、整備前と比較して増加した面積

0　㎡

（様式1）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）　　（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型　番	台　数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
（研究設備）							
古活字版嵯峨本『伊勢物語』	26	慶長13年再刊	上下巻1セット	840　h	7,800	4,812	私学助成
草双紙を中心とする近世絵入本コレクション	26		21冊1セット	8820　h	5,475	3,378	私学助成
近世活字印刷資料コレクション	26		4冊1セット	1680　h	1,641	1,094	私学助成
整版丹緑本『曽我物語』	27	正保3年刊	12巻1セット	3840　h	5,346	3,300	私学助成
写本『千蟲譜』	27	文化8年頃刊	4巻1セット	1280　h	4,968	3,312	私学助成
写本『衆蟲写真譜』	28	幕末頃写	9巻1セット	360　h	4,968	3,312	私学助成

18 研究費の支出状況　　（千円）

年　度	平成　26　年度			
小 科 目	支 出 額	積算内訳		
		主 な 使 途	金　額	主 な 内 容
教育研究経費支出				
消耗品費	66	事務用品	51	巻子スタンド、その他消耗品
		撮影用品	15	三脚、SDカード
光熱水費	0		0	
通信運搬費	85	資料送付	85	郵送代
印刷製本費	8	資料複写	8	資料複写代
旅費交通費	2,966	国内調査旅費	1,121	印刷資料調査（京都）
		外国調査旅費	1,845	印刷資料調査（韓国、中国）
報酬・委託料	0		0	研究会講師謝礼
修繕費	89	補修	89	研究資料補修費
支払手数料	8,824	資料デジタル化	6,576	研究資料デジタル化
		謝礼金	969	研究会講師謝礼、翻訳、通訳
		その他手数料	1,279	研究会記録用文字起こし、木版印刷手数料等
用品費	1,320	データ作成・編集	1,249	PC、外付けHDD
		撮影用品	71	ビデオカメラ
図書費	3,330	研究用図書	3,329	図書
計	16,688			
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	594	資料のスキャンと整理	594	時給870円、年間時間数683時間 実人数 7人
教育研究経費支出	0		0	
計	594			
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	0		0	
図　書	0		0	
計	0			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			

（様式1）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

年　　度	平成　27　年度			
小 科 目	支 出 額	積　算　内　訳		
		主 な 使 途	金　額	主　な　内　容
教　育　研　究　経　費　支　出				
消 耗 品 費	428	文献資料	428	文献資料購入費
光 熱 水 費	0		0	
通信運搬費	0		0	
印刷製本費	67	広報	67	研究講演会ポスター・チラシ印刷費
旅費交通費	1,088	国内調査旅費	841	印刷資料調査（京都）
		外国人研究者招聘関係	247	日中韓共同研究会
報酬・委託料	0		0	
支払手数料	13,683	システム開発	8,593	高速類似画像検索システム開発
		資料デジタル化	3,072	資料デジタル化
		その他	2,018	研究会講師謝礼、通訳、翻訳
用品費	503	撮影機材	45	デジタルカメラ、ライト、バッテリー
		編集機材	458	PC、ポータブルHDD
図書費	8,594	研究用図書	8,594	図書
計	24,363			
ア　ル　バ　イ　ト　関　係　支　出				
人件費支出 （兼務職員）	1,300	資料のスキャンと整理	1,300	時給890（10月以降910）円、年間時間数1,445時間 実人数　3人
教育研究経費支出				
計	1,300			
設 備 関 係 支 出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	2,817	機器備品	2,817	ストレージ、デジタルカメラ
図　　書				
計	2,817			
研　究　ス　タ　ッ　フ　関　係　支　出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			

年　　度	平成　28　年度			
小 科 目	支 出 額	積　算　内　訳		
		主 な 使 途	金　額	主　な　内　容
教　育　研　究　経　費　支　出				
消 耗 品 費	241	文献資料	241	文献資料購入費
光 熱 水 費	0		0	
通信運搬費	4	資料送付	4	郵送代
賃借料	174	レンタル	174	レンタルサーバ、研究会用機材レンタル
旅費交通費	4,629	国内調査旅費	3,639	日中韓国際研究会、印刷資料調査（京都、奈良、福井）
		外国調査旅費	990	印刷資料調査（中国、韓国）
報酬・委託料	0		0	
支払手数料	24,613	システム開発、システム保守	12,950	高速類似画像検索システム開発・保守
		資料デジタル化	10,559	資料デジタル化
		その他	1,104	講師謝礼、通訳、翻訳、研究会文字起こし
用品費	154	撮影機材	78	デジタルビデオカメラ、デジタルマイクロスコープ
		保存用品	76	ポータブルHDD
図書	7,582	研究用図書	7,582	図書
計	37,397			
ア　ル　バ　イ　ト　関　係　支　出				
人件費支出 （兼務職員）	462		462	時給910（10月以降940）円、年間時間数503時間 実人数　3人
教育研究経費支出				
計	462			
設 備 関 係 支 出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	0		0	
図　　書	0		0	
計	0			
研　究　ス　タ　ッ　フ　関　係　支　出				

（様式1）

法人番号	131090
プロジェクト番号	S1411020

リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			